

1 応募部門

学校図書館を活用した授業部門

2 実践のねらい

(1) 研究主題 自ら学び、心豊かに生きる子どもの育成 ～学校図書館活用教育の研究～

(2) 主題設定の理由

今日の激動する社会情勢の中で、これからの時代を生きていく子どもたちには、今まで以上に自ら学び考える力が必要とされている。一方、子どもたちの生活をみると、幼い頃からのテレビの長時間視聴が続いており、直接体験も非常に少なくなっている。本校は、自然に恵まれた山間部に位置しているが、少子化のため近くに遊ぶ仲間がいないということもあり、全国や島根県の平均以上にメディアとの接触時間が長いという実態がある。そのため、家庭・地域と連携しながらの、「自ら学び考える力の育成」「豊かな人間性の育成」「基本的生活習慣の改善」を重要課題としている。

学校図書館は、「次世代の知と生きる力を育む宝庫」であり、新学習指導要領を見てもこれからの教育を進める上で重要な柱の一つとされている。また、「子どもの読書活動の推進に関する法律」や「学校図書館法の一部を改正する法律等の施行について」からも、学校図書館活用教育の重要性は明らかである。とりわけ、言葉を学び、コミュニケーションの基礎を学ぶ子どもの時期には、読書は特に重要であり、この時期に読書のすばらしさを体験することによって、生涯にわたって読書をしていこうとする意欲を持たせることができる。

以上のことから本研究主題を設定した。

(3) 主題の受け止め

自ら学ぶ子どもとは

学習指導要領では、子どもたちに「生きる力」を育むことが明記されており、「確かな学力」として、自ら学ぶことが重要視されている。また、近年注目されているPISA型読解力としても、様々な情報を読み取り、自分で考え、自分の言葉で表現していく力を付けていくことが大切であるとされている。

本校では、自ら学ぶことは、自ら課題を見付け、自ら考え、自ら解決していくことであるととらえる。さらに以下のように段階を得てとらえている。

- ・ 課題を見付け、見通しをもつ。
- ・ 課題解決のために情報を取捨選択する。
- ・ 情報を記録しまとめる。
- ・ 互いの考えを伝えあう。
- ・ 学んだことを活用する。

このように学び進めていくためには、情報活用能力が必要となる。

このような力は生涯にわたって「生きる力」として働くものであり、読書は、すべての社会的活動の基礎となる力を、効果的に高めることができると考える。

心豊かに生きる子どもとは

心豊かに生きる子どもとは、さまざまなことに感動し、自分の思いを深め、人の気持ちにも思いをはせる子ども、また、自分の思いを豊かに表現して相手に伝えることができる子どもととらえる。

(4) 研究の目標

暮らしの中で本に親しみ、いろいろな本を進んで読み、活用する子どもを育成するためには、どのような学校図書館活用教育をすればよいのかを明らかにする。

(5) 研究仮説

発達の段階に応じた学校図書館活用教育を継続的・計画的に行えば、自ら学び心豊かに生きる子どもが育成できるであろう。

(6) めざす子ども像

- ・ 本に親しみ、いろいろな本を進んで読む子
- ・ 本によって思いや学びを深め、それらを伝え合う子
- ・ 必要な情報を得るために図書館を積極的に活用する子

(7) めざす学校図書館像

①読書センターとして

- ・ 発達段階に応じた興味を持ち感動できる本があり、親しみやすい環境の学校図書館

- ・読書の楽しさを知るきっかけを作ることができる学校図書館
- ・読書活動を広げ、読書体験を深めることができる学校図書館

②学習・情報センターとして

- ・学習に必要な本や情報資料があり、子どもの主体的な学習を支援できる学校図書館
- ・図書館および情報資料の活用方法を指導でき、主体的に学習する能力を育成できる学校図書館
- ・生涯にわたる自学能力の基礎を育む学校図書館
- ・教職員の教育活動を援助する学校図書館

3 実践の概要

(1) 研究内容と方法

①授業での学校図書館の積極的な活用～学校図書館を活用した授業のあり方を明らかにする

- ・読書活動との関連や発展を見据えた単元を構成する。
- ・読書の意欲を高める指導過程を工夫する。
- ・必要に応じて情報や資料が活用できるよう、計画的な図書館利用指導を行い、情報活用能力を育てる。
- ・一人ひとりの読書する力に応じた支援を工夫する。

②読書習慣づくり ～一人ひとりに応じた読書指導を継続的に行う～

○朝読書の充実

- ・学級担任による読み聞かせ
- ・子ども一人の自主読書

○特別活動（学級活動）

- ・図書館や学級文庫の利用促進（読書の時間）
- ・学級担任によるブックトーク
- ・読書発表会

○読書の記録

- ・読書ノートを活用

○一人一人に応じた読書指導

- ・個人カルテの利用
- ・読書ノートの継続的な取組

③保護者や地域、関係機関との連携

○読書活動の啓発

- ・ノーテレビ、ノーテレビゲームデーの設定
- ・親子読書
- ③・授業公開、講演会

○大田市立図書館との連携

④魅力ある図書館づくり

○計画的な図書購入

○図書館の整備

- ・利用しやすい配置
- ・掲示

○子ども小学生新聞購読

⑤職員研修

○研究職員会議、研修職員会議

○新聞回覧・・・ブックトークの記事

○職員会議での3分トーク「わたしのすきな本（おすすめの本）」

4 実践の成果

○情報活用教育の取組より

- ・「富山小学校図書館活用学習年間指導計画」を位置づけ、計画的に情報活用教育を取り入れることができるようにした。
- ・学校図書館を活用する学習では、「つかむ」「調べる」「まとめる」「伝え合う」という学習過程を組み立てている。子ども達にも学習過程を伝えることで見通しをもって学習に取り組むことができるようになった。
- ・調べ方やまとめ方が分かり、情報活用能力が高まり、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・学校図書館ボランティアの配置により、パスファインダーやブックリストづくりを中心に図書館活用学習において担任のサポート役を果たし、子ども達にもきめ細やかな支援ができた。
- ・個別の支援計画をつくったことで、学校図書館ボランティア等と一人一人の子どもとの共通理解を図ることができ、きめ細やかな支援ができた。